

特別企画：「with コロナ時代の留学生たちは？」作文コンクール

表彰式

日時：令和3年3月5日(金) 11:30～

場所：岩手大学学生センターB棟1階 多目的室

1. 表彰 別添の応募者一覧を参照

株式会社久慈琥珀賞

株式会社八幡平リゾート賞

岩手県国際交流協会賞

盛岡国際交流協会賞

岩手県立大学賞

盛岡大学賞

富士大学賞

いわてユネスコ賞

サーモンランド賞

IF YOU WANT 賞

事務局優秀賞

奨励賞

(ベスト賞) 岩手県留学生交流推進協議会長賞

2. 優秀作文紹介

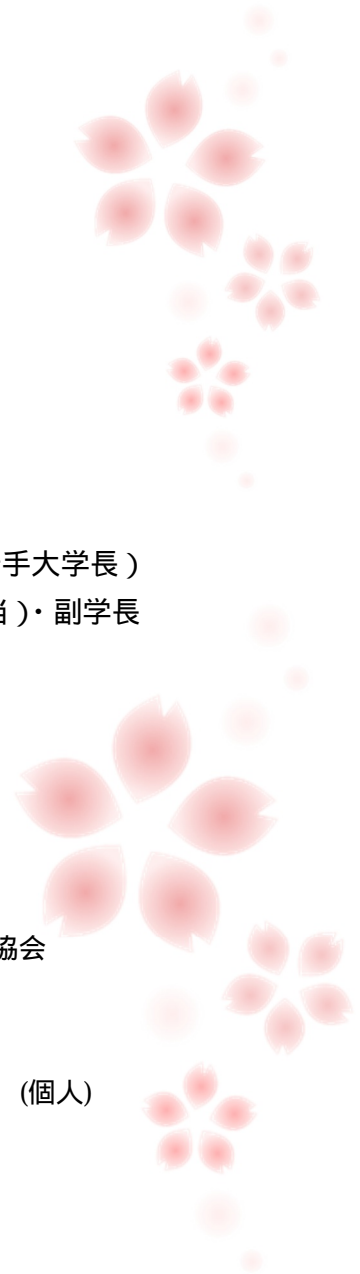
3. 主催団体等講評

全体講評	小川 智	岩手県留学生交流推進協議会長(岩手大学長)
選者講評	喜多 一美	岩手大学理事(教育・学生・IR担当)・副学長
	藪 敏裕	岩手大学副学長(国際連携担当)
	山下 千佳	岩手大学国際課主査

4. 集合写真撮影

【協賛】五十音順

- ・岩手県国際交流協会
- ・岩手県ユネスコ協会連盟
- ・岩手県立大学
- ・株式会社久慈琥珀
- ・公益社団法人日本青年会議所東北地区
- ・岩手ブロック協議会
- ・八幡平リゾート株式会社
- ・富士大学
- ・宮古市国際交流協会
- ・盛岡市
- ・盛岡大学
- ・軽米町山下善昭(個人)



令和2年度岩手県留学生交流推進協議会事業 「withコロナ時代の留学生たちは？」作文コンクール応募作品一覧

ページ	所属機関	学生名	フリガナ	国籍	タイトル	言語
1	盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校	LA WOON PYAE	ラ ウオン ピエ	ミャンマー	コロナをチャンスに	日
2	盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校	NGUYEN THI THANH LOC	グエン ティ タン ロブ	ベトナム	日本留学とコロナからの「贈り物」	日
3	盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校	ラマ アシス	ラマ アシス	ネパール	コロナをチャンスに	日
4	上野法律ビジネス専門学校	趙蓬	チョウホウ	中国	コロナ時代と私たち	日
5	岩手大学	黄 耀明	コウ ヨウメイ	台湾	コロナ時代の思いやり	日
6	岩手大学	TSERENSAMBUU MANDUKHAI	ツェレンサンブー マンドハイ	モンゴル	コロナが私に教えてくれたこと	日
7	岩手大学	伍潔玲	ゴ ケツレイ	中国	コロナ禍で私の留学生活	日
8	岩手大学	何 奕君	カ エキクン	中国	コロナ時代、生活での些細な出来事	日
9	岩手大学	YU DAEHEE	ユ デヒ	韓国	コロナ時代の私	日
10	岩手大学	LUONG NGOC PHUONG LAN	ルーン ゴック フーン ラン	ベトナム	コロナのおかげで体験できること	日
11	岩手大学	江敏婷	コウ ビンテイ	中国	コロナの時代に生きてても、怖くない	日
12	岩手大学	QUAN THI HUONG	クアン ティ フーン	ベトナム	コロナに限らず、変化に対応する力を身に付けよう	日
13	岩手大学	賈 儒昊	カ ジュコウ	中国	コロナの影響の多面 ー不利だけではなく、有利になるかもしれないー	日
14	岩手大学	何 岩	カ ヤン	中国	A spot of bother	英
15	岩手大学	AHMED RUBEL	アハメド ルーベル	バングラデシュ	Aftermath of Covid-19: Quest for New Normal	英
16	岩手大学	TAPATI SUMAIYA JANNAT	タポティ スマイヤ ジャンナット	バングラデシュ	The pandemic	英
17	岩手大学	王 宇超	オウ ウチョウ	中国	International Students in the Epidemic Era	英
18	岐阜大学 岩手大学配属	BISWAS PERU GOPAL	ビスワス ペル ゴパル	バングラデシュ	Global impact (brief) of COVID-19	英

コロナをチャンスに

LA WOON PYAE

(ラ ウォン ピエ・ミャンマー)

盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校日本語学科

2019年に起きた新型コロナウイルスは私の生活に大きい影響を与えました。コロナ時代に私達は外へ出るのが怖くなり、自分や自分の家族に感染するのを心配して過ごしています。今まで当たり前だと思っていた未来が変わりました。このコロナ時代に日本へ留学することは私にとってリスクでした。留学のため、資料を準備するとき、必要な書類は前より多くなりました。コロナの検査のため病院へ行ったり、入国したら待機するための書類を作ったりしました。それらは経済的にも負担がかかりました。しかし私は諦めず待機中はオンラインクラスで勉強し、今年の11月に来日することができました。来たばかりはアルバイトがなかなかできませんでした。工場は労働者を減らし、レストランは外食する人が少なくなったせいでスタッフが要らなくなったりしたからです。

しかし、コロナがなかったら、気づけなかったいいこともありました。コロナ時代がなければ、人と会うこと、外へ遊びに出ることができる普通の日はこのように幸せなんだと気づきませんでした。また、コロナ対策のおかげで、インフルエンザにかかる率が低くなりました。それに、オンライン授業は行き帰りの時間がかからないので便利でした。同じように、ネットで仕事の打ち合わせや面接などいろいろできることに気づきました。

コロナはいつなくなるか誰もわかりませんが、健康的な食事をとる、睡眠時間を十分にとる、適度な運動をするなど、生活の習慣を工夫すれば今感じているストレスやコロナ疲れを解消することができると思います。コロナの時代だからと言って何もできなくて諦めることなく自分の健康を大切に、自分の選んだ道を行ったらいいと私は思います。

日本留学とコロナからの「贈り物」

NGUYEN THI THANH LOC

(グエン ティ タン ロブ・ベトナム)

盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校日本語学科

現在コロナという言葉を知らない人はいないと思う。新型コロナウイルス感染症の世界的流行で、私たちの生活は大きな影響を受けているからだ。けれども、大変な中だからこそ、良い事を考え、体験できると思う。留学生として私はいろいろな面白いことを見つけることができた。

日本にいる留学生たちは、経済的に大変だ。コロナによってアルバイトができなくなったため、困っている留学生が少なくない。私もその中の一人だ。しかし、そんな時だからこそ私は自宅でできる「本のレビューを書く」という仕事を見つけることができた。本のレビューを書くという仕事は私にとって最高の仕事だ。読書と文章を書くのが好きな私には仕事と楽しみを兼ねられる、一石二鳥のとても良い仕事と出会うことができ嬉しかった。

また、授業がオンラインになったことは良いチャンスがたくさんあったと思う。世界中で無料のオンラインコースがたくさん作られ、誰でも参加できるようになり、私はハーバード大学のプログラミングとビジネスのコースを受けることができた。そのコースは以前ならアメリカに行かないと参加できなかったもので、このチャンスを得たことはとても嬉しかった。

最後に、私が気づいた1番大切な事は『普通こそ1番の幸せだ』ということだ。留学生として学校に行き、バイトをして元気に普通の生活を出来ることが1番の幸せだと言う事に気づけた。

コロナ時代の状況下でも、自分らしく、今よりもっと充実した思い出を作りたいと思う。今年4月で帰国するが、自分が盛岡に来た時に感じたベトナム語や、英語の情報が少ないと思ったことを、これから盛岡に来たいと思っているベトナム人、外国人に少しでも、情報を教える事ができるように 体験できたベトナム語と英語で盛岡のきれいな場所や、美味しかった食べ物などを紹介するブログを作って発信したいと思う！

コロナをチャンスに

ラマ アシス (ネパール)

盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 日本語学科

コロナは世界中の人々の生活を困難にしている。私の国、ネパールはコロナの影響でロックダウンの期間が長くなり、食料不足になってしまった。

私は19歳のときからトレッキングガイドの仕事をしている。そこで出会った日本人の方たちと協力して、食料不足で困っている人たちへのボランティアを始めた。きっかけは約8年前、ネパールで20年間ボランティアをしている日本人との出会いだった。その人を通じて、ボランティア活動をしてきたが、今回のコロナでは孤児院や障がい者施設などに行き、お米と野菜、油、塩、マスクを配った。最初は暇な時間が多くて、ずっとコロナのことを考えていたが、ボランティア活動を始めてから忙しくなった。忙しかったが、ボランティア活動をする、とても元気がでた。色んな人たちと会ったり、外に出たりするのは、自分にとってもほかの人にとっても危険なことだったが、私は病気よりもとても大きな痛みを見たので、怖くなかった。すべての人のためだった。

このような経験から私が学んだことは、疫病よりも大きい、強い目標を持って頑張れば、サポートしてくれる誰かがいて、何でも成功できる、ということだ。また、コロナになる前はzoomのような、オンラインがネパールではあまり使われていなかったが、コロナになったことで使われるようになり、zoomで色々な人たちとボランティアについて話し合うことができた。

このような状況は、一人の努力だけではコントロールできない。すべての人が協力しあうことが大切だと思った。



孤児院でボランティア活動をしたときの写真

コロナ時代と私たち

趙 蓬 (チョウホウ 中国)

上野法律ビジネス専門学校

総合ビジネス学科観光ビジネス留学生コース

コロナが発生して以来、生活は大変影響を受け大変なことが多かったです。遠い場所に行かないでオンライン面接を受けて良かったと思う人がいるかもしれませんが、私にとっては全然変わらなかったです。

最初は留学生として日本へ来たら帰りたいときいつでも帰れると考えていましたが、いきなりコロナが発生し正常な生活が乱されてしまいました。中国に帰りたくても帰れなくなり、両親に会いたくても会えないつらい気持ちになる日が多かったです。

本来は2020年の夏休みの時期に中国に1回戻って両親に会う予定でしたが結局コロナ禍で会えなかったです。もし日本でコロナに感染したら、一人で他国にいる私はどうすればいいのかと思うと余計に怖くなりました。

また、アルバイトも急に減少になり、どこでも大変な時期なのに私は学費と生活費は中国の両親からもらうしかないと考え、両親に負担をかけてしまうこととなりました。コロナ禍が終息したらしっかりアルバイトを行い両親の負担を軽減したいと思います。

私はコロナ禍がひどい状況でも東京に行き面接試験を受けに行き心の中はどのようなのだろうとドキドキでした。コロナ禍のなかで良かった点は無かったです。最初にも述べましたがコロナ禍の中で遠くに行かなくてもオンラインで大学や就職の面接試験が受けられて良かったという人がいるのなら羨ましいです。

それでも私はコロナに感染の恐れがある時代に良かった点もあると考えます。それは自分が元気でいられることです。これからも油断せずコロナ禍が終息するまで自分を守っていきます。

コロナ時代の思いやり

黄 耀明 (コウ ヨウメイ・台湾)
岩手大学理工学研究科
デザインメディア工学専攻2年

この文章を書く際、締め切りの“2/12”の日付を見た瞬間、呆然としました。なぜなら、その日は台湾の旧正月の日だからです。

緊急事態宣言が発表されてから、すぐに家族と話をしました。母は「今のご時世を考えたら、今年は帰らない方がいいよ。おとなしく岩手にいなさい。」と言いました。私は仕方なく受け入れ、「おとなしく岩手にいて学業に専念しよう」と考えましたが、実際に帰りたくてたまりませんでした。2年間母国にいる家族に会わないのは初めてでした。

昨年の中頃を思い出してみると、日本ではしばらくの間マスクが不足していました。ある日、私は最後の一箱のマスクを買おうとしました。けれど、結局それは見ず知らずの日本人のお母さんにあげました。なぜなら、そのお母さんは子供を背負って一日中色々なお店を走り回りましたが、結局一箱も手に入れることができなかったということが分かったからです。その時、自分の家にはマスクがまだ少し残っていたので、買ったマスクをお母さんにあげました。私は「また探せばいいから、大丈夫ですよ」と言ったら、そのお母さんにすごく感謝されました。結局、マスクをあげた日は、マスクを手に入れることができませんでした。家に帰ってからそのお母さんと出会った話を友人に話しました。私は苦笑して「俺はバカなことをしたな、せっかく手に入れたマスクをそのままあげてしまった」と言いましたが、友達は笑って「いや、バカじゃないよ。むしろヤオミンらしいなと思うよ。」と慰めてくれました。その時の私は、「大丈夫だ。今は買いたくても買えないけど、いずれ手に入るさ」と言い聞かせるしかありませんでした。

数日後、食品を買いに行ったところ、店員さんが品出しでマスクを補充していました。それを見かけた私は、「ほら！いずれ手に入る時が来た」と心の中で叫びました。その日ようやくマスクを買うことができました。

このようなご時世の中では「他人を助けるより、まず自分を最優先すべき」と考えがちですが、もし自分があのお母さんと同じような場面に遭遇した時もそのように思えますか。実際に、コロナ禍でこのような状況は日本であろうと台湾であろうと起こり得る事です。ですから、人々がお互いに助け合うことがコロナウィルスを乗り越える最も良い対策ではないかと思います。一刻も早いコロナウィルスの収束を心から願っています。収束さえすれば、少しでも早く大切な家族に会えるようになるでしょう。



コロナが私に教えてくれたこと

TSERENSAMBUU MANDUKHAI

(ツェレンサンブー マンドハイ・モンゴル)

岩手大学人文社会学部

人間文化課程 2年

世界が一瞬で変わるとはこのようなものだろうか、と考えながら学校に通う日々が続く。コロナが発生してから約一年が経過し、我々にとって様々なことについて考えさせた時期だったと思う。この「新しい生活様式」に徐々に慣れてきたという人もいれば、新型コロナの影響により、不満を抱いている人や先が見えない事態に不安や戸惑いが多い人もいるのではないか。一長一短ということわざがあり、どのようなものにも長所と短所があるという意味を持つ。そのため、コロナが起こしたことは悪影響ばかりかだったかということ、そうでもないと考える。

この大変な時期は新入生にとっては、新生活が始まり、友達やサークルなど色々ことに期待しているはずなのに、この状況になってしまいとても不安な気持ちであったと思う。去年の夏頃に学校に行ったが、静かな学校が私を迎えてくれた。本来なら学生の笑い声があったり、教職員の仕事への熱心さを感じたりすることができただろうと考えたら寂しい気持ちが溢れてきた。留学生も帰省することができなくなり、楽しみにしていたいろいろな計画が破綻され、母国に住んでいる家族への心配や経済的な困難などによって苦労したことが多かっただろう。

しかし、この状況だからこそ悲観的に考えないことが大事である。私はこの一年で気づいたことの一つは、心配するのは悪いことではないということである。心配するから、我々は何をすれば良いか、または、すべきことについてよく考えて行動するようになる。家族への心配があるからもっと親に電話をかけたり、「愛している」ということを伝えたり、今という「時」を大事にしている。コロナが私たちに教えてくれたことは「別れや苦しみ」だけではない。「身近にあるものの大切さ」もあるのではないか。元の世界へ戻りたいと考えるのではなく「今」を大事にしたいと考えていれば、いつかその「時」がきつくと私は信じる。この時期は我々にとって「昨日の自分より良い自分」になるための時期であると考えます。

コロナ禍での私の留学生活

伍 潔玲 (ゴ ケツレイ・中国)
岩手大学理工学研究科
博士課程1年

新型コロナウイルス感染症が世界的流行してからもう一年ほどが経った。世界の人々は以前と全く違う生活を送っている。留学生として、私は去年の生活をまとめて行きたいと思う。

去年の3月に修士課程を修了し、4月に博士課程に入学した。コロナのせいで、修了式と入学式はなくなったので、静かに新しい研究環境に移った。博士課程は研究が中心で、授業が元々少ないので、前期はオンライン授業に変わっても、最初はあまり影響を受けていないと思った。しかし、学部1年生の授業のTAをした時、その影響を実感した。「情報基礎」の授業ではいろいろなパソコンの操作が必要だが、今の学生はほぼスマートフォンを使うので、パソコンを触らない人がいても珍しくない。学生たちの授業環境も人によって違い、授業に関する疑問がいっぱい出た。オンラインでどうやって学生たちに伝えるかは難しいと思った。幸い、時間をかければ、何とかできた。去年は大学新入生にとって大変な年だと思った。

一番大きな影響を受けたことと言えば、私にとっては旅行だ。旅行は私の趣味だけでなく、ストレスの解消法として、時間があれば、一年間必ず何回か行くと思う。コロナのせいで、感染防止のため、どこも行かなかった。その代わりに、去年は岩手県内のいろいろな国際交流イベントに参加した。たとえば、国際交流協会のオンライン中国語コーナー、中学生に向けた異文化講座。国籍が違う参加者に、中国で当たり前だと思ったことを分かりやすい言葉で伝えるため工夫してスライドを作成した。特に強く印象に残っていることは、去年10月外国人材活躍推進シンポジウムに参加したことだ。発表は苦手だが、頑張って自分を紹介して、パネルディスカッションも体験した。いろいろなイベントに参加すると、発表のコツが段々分かるので、知らないうちにプレゼンは上達する気がした。

人間は生まれてから成長のために新しい環境に適応するように努力してきた。コロナ影響がまだ続くが、私たちはきっと乗り越えられると信じている。

コロナ時代、生活での些細な出来事

何 奕君(カ エキクン・中国)
岩手大学 人文社会科学部 1年

岩大に来ておよそ一年。コロナ禍が今だにも収まらず人々の健康を脅かしている。マスクをつけて出かける毎日だが、冬になると、呼吸する度にメガネが曇ってしまい、前が見えなくなってしまう。かと言ってメガネを外すと、ぼんやりとした世界しか見えず、嫌に思いながらも、袖でメガネを拭いてかけ直す。そしてまた曇る。こんな時に、メガネにワイパーがあったら、なんといいことなのだろうといつも思う。

コロナ禍が収まらない限り、出来るだけ自粛するようにしている。ラーメン屋やレストランなどに行かず、大好きなすき屋の牛丼も諦める。そして不慣れながらも毎日自炊し、最初のころは、炒め料理を作る度、厨房が惨烈な戦場になってしまう。卵焼きは常に爆竹の音を伴い、油が飛び出して手についたら思わず大声を出す。時々フライパンから煙が立ち込めて咳が止まらない。近所迷惑にも程があるだろう。それでも諦めずに何度も自炊して現在、なんとなくきばきと料理を作れるようになった。

大学で前期は遠隔授業だったが、その半年ほどで日本語リスニングの力が随分と伸びたような気がする。マイクを通して伝わってくる先生の声だが、聞き取りづらかったりすることが多かった。これ以上集中できない精神をさらに集中させ、想像力も働かせて二時間ほどじっとパソコンを睨む。受講というより修行の日々を乗り越えた今では、対面授業で以前のように気を引き締めて聞かなくても、授業の内容がほぼ理解できる。さすが俺だと言いたくなるものだ。

コロナ禍で失われたものが多かった。特にバイトができず日々痩せていく財布を見ると心が痛む。が、色々な人にお世話になり、奨学金ももらえてなんとなく生活を続け、勉強に一心することができたのだ。半分引きこもり生活をさせられる今だが、コロナ禍が収まったら、今度こそ部屋から出て、バイトして、自分で金を稼いで、留学生生活を満喫しよう。

コロナ時代の私

YU DAEHEE (ユ デヒ・韓国)

岩手大学理工学部1年

私は、塾の数学の先生からコロナウイルスの影響で、日本に入国するためには2週間の隔離が必要であることを知りました。ですので、私は何も準備ができない状態で、韓国から日本に来ることになりました。その時は、大学の寮に入ることができず、祖母の家に住むことになりました。私は、コロナウイルスで、大学生活がどのような生活になるか不安でした。

大学に入学した私はサークル活動をやりたかったのですが、すぐにはできませんでした。そして、友達との出会いもなく、たくさん悩みました。そして、私はコロナウイルスの中で、どのように大学生活をしていくかを考えました。

結果、私は新しい自分を二つ発見しました。一つは料理です。以前は、食べるだけで、料理をしたことはない自分でした。それは、母が毎日作ってくれていたからでした。コロナウイルスで飲食店での注文を恐れ、はじめて自分で料理を作り始めました。その結果、韓国料理や洋食など様々な料理を作れるようになり、節約できるようになりました。また、他の人に料理を作ってあげる喜びを知り、これからもっと様々な料理で、人に幸せを伝えたい心が湧いてきました。

二つ目は運動です。私はサッカーやバスケットボールなどの運動が好きですが、コロナウイルスがある今は、やることを避けました。それで、私は寮で、一人で運動をしました。最初はプランクやシットアップなどの運動をしましたが、全然楽しくありませんでした。それで、初めてヨガをやりました。簡単な姿勢の補正や瞑想をやりました。そのおかげで、私は気を落ち着ける方法を学び、より健康な身体を持つことができました。

このコロナウイルスでの自粛生活で、様々な自分自身を見つけて自信を持つことができ、豊かな生活ができたと思います。韓国には「避けられなければ楽しい」ということわざがあります。今年の私はこのことわざの通りだったと思います。

コロナのおかげで体験できること

LUONG NGOC PHUONG LAN

(ルーン ゴック フーン フーン ラン・ベトナム)

岩手大学理工学部 3年

2020年は世界の混乱の年でした。この世界は今、コロナウイルスという怪物のようなものに支配されています。コロナがやって来て、私たちから色々なものを奪い、なんの罪もない人の命を容赦なく奪ってしまい、世の中を大きく変えました。しかし、私は新型コロナウイルスの影響は悪いものばかりではないと思います。コロナは怖いですが、コロナのおかげで色々な経験をする事ができ、気付かせてくれたこともあります。

皆さんはコロナが流行する前に、マスクの重要性を十分に感じられましたか。マスクは贅沢な贈り物になる日を想像したことがありますか。私は過去に一回も想像してみませんでした。当たり前だとずっと思い込んでいることから当たり前じゃないことになったことで、私は一見小さくて些細なこと、些細なもの大切さを分かってきました。これからどんな些細なものでも大切にすると心がけています。

コロナのせいで出来なくなることがたくさんありましたが、新しく始められたこともありました。このようなスマホでの勉強、オンラインの授業、オンライン面接もそうだと思います。また、コロナウイルスが早く収束するのに部屋に過ごす時間も増えているため、その時間を利用し、出来ることを探して新しいことに挑戦してみました。料理を作ることにしました。肉じゃがや、里芋の煮物や、炊き込みご飯、豚汁、きんぴらごぼう、つけ麺…などの日本の家庭料理は前にお店に行くか、友達の家に行くかの時にしか食べられないが今は自分で作られるようになりました。毎日食べても飽きないぐらい大好きなつけ麺は今、私の自慢できるお料理になりました。



今度、母国に帰る時、日本に来る機会がまだない友達やご家族に日本の美味しくて健康的である家庭料理を作って、皆と一緒に食べたいと思っています。私の両親も楽しんで待っているよと言ってくれました。これから、自分の料理のスキルを向上させていきたいです。

新型コロナウイルスはまるで私達の人間性を試しているようなので、この機会に物事をすべて大切にすることと共に沢山の新しいことに挑戦していきたいと思っています。

コロナの時代に生きても、怖くない

江 敏婷 (コウ ビンテイ・中国)
岩手大学総合科学研究科 1年

コロナの時代に入っている以来、私たちのライフスタイルは大きく変わった。遠隔授業が始まったり、マスクの時代に入ったり、旅行に行けなくなったりするようになった。最初はこれらの変化に対して、結構抵抗感があった。それに、友達と会って話す時間がだいぶ減ったので、ストレスがたまった時期もあった。

遠隔授業は確かに便利だが、宿題の量もだいぶ増えてきて、毎日家でレポートを書く生活を送っていた。これはいつもの授業より疲れていた。また、どこに行ってもマスクや消毒をしないといけないので、面倒だと思った。でも、知らないうちに、このような生活に慣れてきた。

自粛生活をして、家にいる時間が増えているので、自分と向き合う時間も増えてきている。授業が終わった後、すぐに好きなことをすることができた。例えば、好きな料理をしたり、読書したり、音楽を聴いたりする。また、ずっとハムスターを飼っているから、授業を受け、レポートを書くのは大変だが、その子の顔を見るだけで癒されて、すぐ回復できるようになった。



それに、コロナがひどくなったときに、中国の友達からの連絡が結構あって、私の近況を聞いた。このように関心を払われたのが、とてもうれしい。友達とビデオ通話をするのが頻繁になって、お互いに自分の研究生生活や仕事のことをしゃべって、いくらストレスがたまって、すぐ気分が晴れるようになった。私たちは様々な方式で、困難を乗り越えている。

例えば、オンライン留学している友達もいて、本当にこのコロナの時代にしか体験できない留学だ。日本で在宅勤務している友達もいて、仕事の量はあまり変わらないが、通勤の時間がないので、自分に使う時間が増えて、いつもより楽しいらしい。

「コロナ」のおかげで、私たちは新しいライフスタイルを発見した。それだけでいいものではないか。コロナの時代に生きても、怖くない。怖がらないと、希望や面白いものが見えてくる。

コロナに限らず、変化に対応する力を身に付けよう

QUAN THI HUONG

(クアン ティ フーン ・ベトナム)

岩手大学総合科学研究科

理工学専攻 2年

コロナ禍で大きな変化は友達と会う機会がほとんどなくなったことです。今までは休みがあるとき、友達に会ってショッピングをしたりご飯を食べに行くことも多かったですが、今は休みがあっても家にいるか図書館に行くか一人で過ごすのがほとんどです。元々私はインドア派という理由もありますが、それでも外に出る機会がかなり減っているし、長い休みも海外旅行など思い切って遊べないです。新型コロナの影響で行動が制限されていて、やりたくてもできない状況が多くなっています。今まで楽しみにしていた活動ができなくなっています。思うようにはならない日々が続くことによって不安や恐怖を感じやすくなっています。

そこで私がとった行動は「連絡」です。今までより真面目に家族、友人や知人に連絡をとることにしました。対面が難しいコロナ禍ではありますが、フェイスブックだったり、ラインだったり、さまざまな連絡手段があります。誰かと話したり、やりとりをしたりすることによって不安や恐怖からくるストレスは解消されます。また、コロナ禍だからこそ、不安や恐怖を話すことで私だけ不安に感じているわけではないのだなと共感が生まれ、心が安心します。

連絡をすることに対して理由を探したり、タイミングをはかる必要はないと思います。元気にしているかなとかあなたのことが思い浮かんだのでという理由で十分だと思います。また、返事が返ってこないことに対して嫌われているなど過大にネガティブに考えすぎないようにしています。返事が返ってこない相手が忙しい、他のことに集中していると思うようにしています。

新型コロナウイルス感染症は誰もが初めての経験であり、私たちの生活に大きく影響しています。これを機に変化に対応する力を身に付けていきたいと思っています。

コロナの影響の多面

ー不利だけではなく、有利になるかもしれないー

賈 儒昊(カ ジュコウ)

岩手大学理工学部 1年生

私は中国出身の留学生です。

岩手県に来て10ヶ月ぐらい経ちました。昨年の4月にさいたま市から盛岡市に移住しました。盛岡は騒々しい環境ではなく、静かで落ち着けるところと感じました。昨年の一年間は新型コロナを収束することができず、様々なことが昨年とは違う環境下でした。入学式が行われず、前期の授業はオンラインでした。授業の大変さもさることながら、何よりも友達を作りにくかったです。様々なイベントが中止になり、学内の合宿も中止になりました。勉強はもちろん、友達作りは工夫して頑張りました。そういった行動の中で興味がある部活やサークルを探し、7月に剣道部に入部しました。剣道部には残念ながら同じコースの先輩がいませんでした。コロナウイルスの影響により夏休みのお祭りや花火大会がなくなりガッカリしました。もちろん東京の友達には会えませんでした。

しかし、たくさんの不幸よりもよかったことがたくさんありました。1つ目のよかったことは、地元の方々が親切であることに感動しました。例えば、私が一番はじめに作った友達は岩手県盛岡市出身で何度も助けてくれました。また、JA 新いわてからいただいたお米も美味しかったです。2つ目のよかったことは後期の勉強の環境が良くなったことです。コロナウイルスの影響で遊びに出歩くことができなくなった反面、勉強に専念できるようになり、先生に質問や相談しやすくなりました。

コロナウイルスの影響で国に帰れず、家族に会えなくなり、苦しい思いをしていました。その苦しみを緩和する方法として以前は旅行をしていましたが、私は大学生なので自分のため、家族のため、旅行費を節約し、集中講義を受け、勉強に専念したいと考えています。人類が新型コロナに勝てる日が必ず来ると思いを馳せながら充実した大学生活を送っていきたいと考えています。

A spot of bother

He Yan, (China)
Iwate University,
Science and engineering department,
Second Grade

As far as I am concerned, the most breaking news in 2020 is the virus Covid-19. According to the researchers all over the world, the bigger the city is, the greater the risk of outbreak. Since the start of the outbreak, the impact of the virus has increased greatly. I believe this for the following reasons.

Up to now, “Thanks” to the virus we all have changed our lifestyle. In case we may be infected with the disease. We should not go outside if we don’t have to. During the summer vacation, I was back in my hometown. As soon as I landed, I soon noticed that I already had to be isolated for at least two weeks. This situation made the trip a memorable experience.

During the last semester, I had online learning at home. Not everyone wants to learn online. You have to buy a PC and get a network set up, which aren’t cheap. And when they break down, as is often the case, the price is pretty steep to repair and also cause annoying delays. While I like learning online, because I can use the internet to get more information whenever I want.

I also intend to level up my oral English by study in cramming school outside of the university. Because of corona, my teacher reduced the number of classes, so that I have to reduce my lessons as well. There is no question that my plan needs to reset. Fortunately, my reading skills have improved significantly since I have less lessons to practice my speaking. In that regard, I am reminded that there are still some good things depending on what you want to see.

In summary, one important thing that we often overlook in our lives is how our points of view affect how we see the world. Our experiences, beliefs, situations, and even our simple positions in life can change how we see something.

Aftermath of Covid-19: Quest for New Normal

Rubel Ahmed (Bangladesh)

Iwate University, Mechanical and Aerospace Engineering, M1

Corona virus has been taking a heavy toll on our lives. Nowadays life is not as comfortable as before the corona pandemic. We have suffered in many ways. First and foremost, many of us have lost their nearest and dearest family members, relatives, friends and well-wishers due to corona virus infection. It will take a long span of time to heal the wounds.

In addition to that corona virus has become a big challenge to run the educational institutions as well as taking in campus classes with physical attendance of teachers and students. As an alternative way the educational institutions are functioning through online. During online classes most of the students are unable to pay due attention to the class lectures. Many students feel uneasy to ask questions in the middle of online classes. Because of time constraints the professors cannot response to all the questions asked by the students. This kind of unprecedented communication gap among the professors and students creates an unfriendly environment for effective learning. As a result, many students do not understand their class lecture properly. Eventually it leads to exam phobia, depression and mental health problems.

Another major problem with online class and communication is the grave violation of right to privacy. Some online communication Apps are stealing the personal information of the users. Which is a cyber-crime and punishable offence in accordance with law.

Besides that, due to pandemic situation daily life of the students has become monotonous for being confined to the four walls of bed room. We have to maintain physical distance as well as social distance. No student is allowed to attend a year ending party with classmates and friends. So, lack of amusement is making the study process less enjoyable and incomplete.

Moreover, fewer international students than before can go to the home country to visit their family members during corona pandemic for some specific restrictions on travelling through international borders. Because they have to face serious procedural difficulties to get a corona negative certificate from the concerned authority. The air fare has become double for maintaining physical distance in the plane also. After reaching home from abroad he has to observe mandatory quarantine for at least fourteen days which is another cause why the greatest number of international students are deprived to visit their parents in the time of corona pandemic.

Last but not the least, many international students have lost their part time job and have become unemployed. Therefore, a large number of self-funded international students are facing serious financial crisis to bear their educational expenses as well as living costs.

Nevertheless, we are now habituated with so called new normal. Attending online classes, presentations and meeting with friends in an online get together party is on the incline. Invention and distribution of Covid-19 vaccine across the globe is showing the light of hope at the end of the tunnel. We are highly expectant to breath in a Covid-19 free world soon.

“The pandemic”

Tapati Sumaiya Jannat (Bangladesh)
Iwate University,
Department of Plant Biosciences,
Doctoral 1st Year

I have come to Japan on October 2019 from Bangladesh to fulfil my dream of becoming a researcher. This is my first time stepping out of the border of my country. After reaching Japan, I could only spent couple of good months here, when there was face to face human communication.

But unfortunately it did not last long because of the spread of the deadly strain of corona virus all over the world leading to the pandemic known as COVID-19. Suddenly there were some remarkable changes in normal human behaviour or practices like wearing mask for whole day no matter what to reduce the risk of infection, washing hands more frequently than ever before, frequent use of hand sanitizer. During this period of time I was even afraid to sneeze in public and touch any surface before sterilization. The most difficult task during this whole time was keeping my hands away from my face. Not only that COVID-19 made me aware of all the choices I could make once they aware taken away from me. Furthermore, since I live thousands of miles away from my family that led me worry more how my family members are surviving these extremely capricious socio-economic changes. But with the time passed by I started to cope up with the situation little by little.

But the bright side of this worst time is that I could give myself lots of time since all the classes, meeting and presentation went online and lab work was organized by rotation. I read a lot of new books and watched lots of movies during my spare time. Not only that I also have spent much of my time cooking and listening to music. Sometimes I talked to my friends from different parts of the world online.

This pandemic taught me how to stay positive even though time is not favourable. During this period of COVID-19 pandemic I have become more health conscious. I also found the online classes, workshop and meeting very convenient since there is no need to get ready or attend it from particular location.

International Students in the Epidemic Era

YuChao Wang (China)

Iwate University Faculty of Humanities and Social Sciences

Research Student

The madness epidemic has spread like wildlife around the world. During the COVID-19 pandemic, international students not only have to bear the pressure of study, but also the mental pressure. For example, since many universities have transferred their teaching activities online due to the epidemic, the quality of teaching cannot be guaranteed. And this form of lack of interaction makes it difficult for us to concentrate. In addition, we have to endure the loneliness and boredom of living alone. Staying in the room all day makes it easy to feel emotionally depressed, and the so-called multi-environment is inaccessible at all. On the other hand, some of us also have a lot of psychological pressure, especially when our friends are subjected to racially discriminatory remarks.

However, the way that returns to our home country is long, and everyone has to comfort each other and make fun in hardship with the belief that now you are here you'd better stay. It is gratifying that the Chinese embassy and universities have provided assistance services to us in response to the pandemic. Additionally, it is because we have saved a lot of commuting time that we can use our free time to develop some hobbies. Moreover, everyone has changed their way of traveling. For instance, some students have chosen to travel by caravan, through which they can get close to nature and avoid crowds.

The epidemic will eventually become history. It is not only a test for every country, but also a life test for us who are studying abroad. During this period of time, even if we encounter various difficulties, our self-reliance and psychological endurance are stronger.

Title: Global impact (brief) of COVID-19

Peru Gopal Biswas (Bangladesh)

The United Graduate School of Veterinary Sciences, Gifu University (Lab. Of Veterinary Parasitology, Faculty of Agriculture, Iwate University), Grade D4

Pandemic COVID-19 (Corona virus) has been affected daily life of most of the people worldwide and it slows down global development especially in economy. Until today more than 2 million people were dying and the death rate is several thousand per day and its spreading capacity is very high. It also creates challenges to public health, food systems, jobs etc. Globally, several 100 million people are at risk of falling extreme poverty. Moreover, half of the world population is at risk of losing their livelihoods, especially in the developing and/or poor countries. In poor and developing countries, for most of the people, no work, no income, no food or less food means malnutrition. Due to COVID-19, international transport and trade restrictions have been affected negatively entire food chain and maximum sectors passing very difficult condition. But health and education system has been crushed in several countries. Millions of students deprived their opportunity in education in many countries and some Universities passing sever fund crisis. Additionally, people also suffer mental problems, especially children because the lack of a normal life. Therefore, total world is going to a worse condition.

For preventing COVID-19 infection, I am following some basic health rules like: a. wear mask in public places, b. avoid crowded places, especially party, ceremony, fair etc, c. avoid unnecessary roaming, d. avoid public meeting (using online meeting), e. use hand sanitizer frequently, f. increases immune stimulator food (Vitamin C and A enrich) intake, g. avoids the foreign country visit etc.

Pandemic COVID-19 has many negative sides, but in some cases it has few positive changes. Before pandemic Corona, most of the people and scientist (researcher) had more focus on other than medical or biological sector. Now world realized that biological or medical related research is needed more emphasis for human survival.

